

■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

読みが苦手な児童(支援学級・通級指導教室)の 意欲的な学びにつなげる

大阪府富田林市立大伴小学校
磯口 多恵子

はじめに

「わいわい文庫を活用させていただいて、もう本校では、わいわい文庫を知らない子どもたちや先生方はいないと言えるようになってきています。」と胸をはって言えるかということ、そうでもないのが現状です。毎年新しく入ってくる新1年生、そして、新任の先生方や新しく転勤されてきた先生方からは、初めて「聞いた」「見た」という声がほとんどです。幼稚園にも紹介させていただき、その時には、「ぜひ取り入れたい」というお声も聞いていました。また、市内の先生方の研修会でも、わいわい文庫を紹介する機会があったり、もちろんマルチメディアDAISY図書のお話しの会もあったりして、知らない先生方はいないだろうと思っていました。

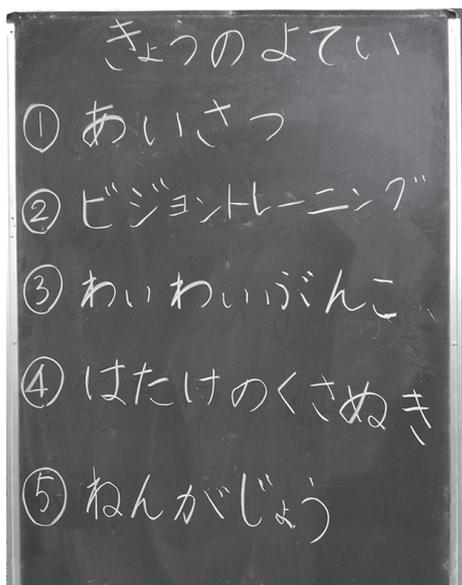
今年度は、特に新型コロナの影響で、学校現場は非常にたいへんな状況になっています。

さらに、わいわい文庫が良いということはよくわかっている、実際にそ

れを映し出す大型TVにパソコンがなければどんなにすてきなCDをいただいても、見ることはできません。残念ながら全学級・教室に映せる環境が整っていなかったのです。しかし、今回、国のGIGAスクール構想によって、私たちの職場にも大型TVやノートパソコンが入り、タブレット端末が子どもたちに1台ずつ貸与されることになったということで、3学期からが楽しみです。「やっと」という感じです。どんなに良い教材でもそれを使うための環境が整っていないと使えません。

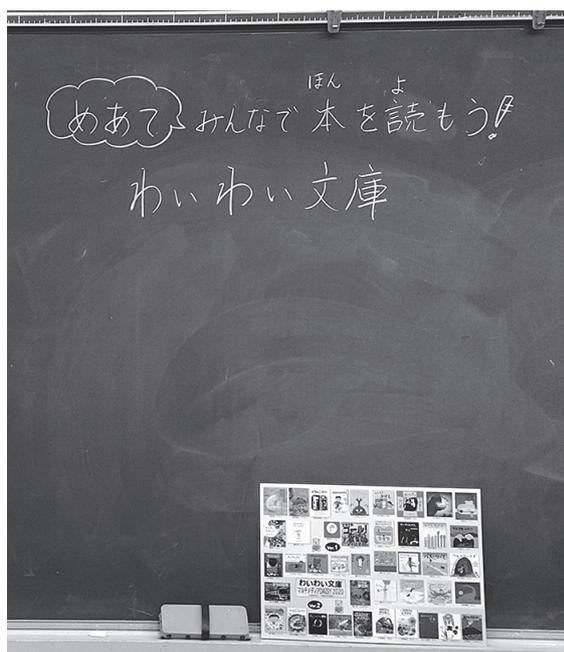
しかし、今回の国の政策のおかげで、このわいわい文庫やマルチメディアDAISY教科書が、より簡単に教室で使えるようになってくることは、たいへんありがたいことだと思います。これを機会にどんどんひろがっていくことを期待しています。

初めてわいわい文庫を知った子どもたちや先生方の驚きや喜びの表情を見るたびに、わいわい文庫ってすごいなと、感動させていただいています。



意欲的な学びにつなげる

通級指導教室でも支援学級でもそうですが、子どもたちの実態に合わせて、課題を設定しています。今年も、読みが苦手な子どもたちが、「楽しく読めるように、聴くことができるように」になったらいいなという思いで、わいわい文庫を取り入れています。

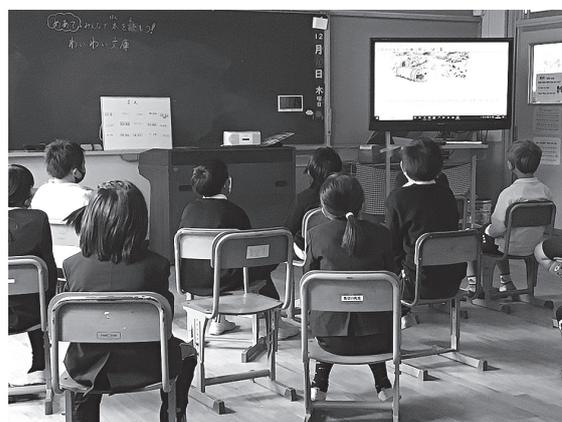


活用の様子

本校の支援学級では、週に1時間(45分)を、「～タイム」と呼び、1年生～6年生までそろって、自立活動の時間を行っています。ここでは、「わいわい文庫」をみんなで読む時間があります。今回の担当の先生は、初めて「わいわい文庫」の存在を知りビックリされていました。ご自分が小さい時に読んだ本で、今はご自身のお子さんに読み聞かせをしている名作の中から『どろんこハリー』を選んでくれました。



三密を避けるために、今までなら、近くで見たい子どもは、画面のそばに寄って試してみましたが、今年は、一人ひとりの椅子もできるだけ離して、座りました。



効果と今後の期待

お話しが終わった後には、本の内容について、質問があったり、自分の感想を言ったりして、本を通していろいろな交流をすることができました。子どもたちは1年生から6年生までいます。また、年代もさまざまな先生方が、わいわい文庫の1冊の本を通していろいろな思いをいただくことができます。本当にすばらしいなと思います。ふだん、教科書だけでは、なかなか集中しにくい子どもたちも、この時間は、静かに聴くことができました。また、おもしろいところでは、自分の気持ちに素直に声に出して、感想を言ったり、つばを飛ばさないように気をつけながらも笑ったり、楽しい時間を過ごすことができました。



環境整備が整ってきた今後は、わいわい文庫を、学校のタブレット端末に入れて、どこの学年・学級・教室でも、すぐに見ることができて、聴くことができるように、先生方と協力して、こつこつあきらめずに一歩ずつやっていきたいと思っています。

すべての子どもたちの笑顔のために！

